

令和5年度 佐久市総合計画審議会第2部会（第3回） 議事録

日時：令和5年8月21日（月）

午後2時～3時20分

場所：佐久市役所議会棟

第3委員会室

【出席者】阿部部会長、原委員、田村委員、檜山委員、伊藤委員、高橋委員、矢羽田委員、山崎委員、小出委員

【事務局】木内企画課長、安井企画調整係長、小林（誠）主任、小林（拓）主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（竹重委員、小泉委員）

2 議事

（1）第二次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について

質疑、意見

事務局	<p>第2部会では、「第二次佐久市総合計画後期基本計画」の第2章の都市基盤分野、第3章の経済・産業分野について審議を行い、本日は第3章についてご審議いただく。</p> <p>【第二次総合計画後期基本計画 令和4年度（2022年度）進行管理報告書】</p> <p>うち、「第3章 力強い産業を営む活力と魅力のあるまちづくり」</p> <p>「農業」（26ページ）について説明</p>
部会長	<p>農業について、ご質問等あるか。</p>
委員	<p>都市部との交流を図るため、農業体験を行う団体等を支援するとあるが、具体的にどのような団体が活動を行っているのか。</p>
事務局	<p>一例として、佐久平果実（りんご）生産組合が収穫体験等を行っている。</p>

委員	農業の事業承継についての対策は具体的に考えているか。
事務局	地域計画（人・農地プラン）の中で、地域の中でも大きな農地を担う農家の方に、どれだけ集約していけるか、話し合いの中で計画を作成している。
委員	専業農家はどれくらいいるのか。法人化している農家もいるのか。
事務局	市としても、なるべく大規模専業農家に農地を集約していこうと取り組む中で、法人化して農業に取り組んでいる方もいる。また、都会から来て新規就農をする方も多くはないがいる。 望月の長者原に移住し、野菜を作っている方がいる。
委員	大勢ではないが、野沢地域にも、大きな機械を所有し、専業で農業をされている方がいる。
委員	「メイドイン佐久市」のイメージで取組を行い、販売ルートを確保することが重要である。一生懸命農業をしても、買い叩かれてしまって、農業に魅力を感じない方が多い。 長者原が先ほど話題に上がったが、そこでは補助金をもらい、東京の高級料理店に高額で野菜を卸していた。そういう方が異端児として扱われている中で、そこをどうフォローし、地域経済を循環させていくのかということについて自治体がどう考えるかが今後問われてくると思う。
委員	農家の高齢化により農業をやめる方が多くなっている中で、仕事として農業を選ぶやりがいを持ってもらうことが大事だと思う。その点において行政がどう関わるかについて、今後、ウクライナの戦争等により食料が輸入できなくなるということがないとは言えない。周りの国や地域で災害などが起きた時でも、佐久地域の住民がその影響を受けずに、食料に困ることなく生活をしていけるよう、農家の皆さんに頑張ってもらえるような支援施策があると良いと思う。

事務局	「林業」(28 ページ) について説明
部会長	林業について、ご質問等あるか。
委員	市内の民有林と市有林の割合について教えてもらいたい。民有林について、自分が山を持っているという意識がある方は良いが、親が山を持っているが、自分は知らないという人もいる。
事務局	民有林と市有林の割合については確認させてもらいたい。
委員	C02 削減の中で、林業は儲かるようにはならないのか。木を植えて C02 削減量を売る等。
委員	簡単にはお金にならないのだろうと思う。
委員	佐久市内でも、木を伐採するには補助金は出ないが、伐採の後に木を植える方には県から補助金が出る。再造林をすることが大事であり、切られずにいた木を切って、新たに植えることを進めている。
事務局	伐採した木を運び出すことが大変だと聞いている。
委員	市としてカーボンニュートラルを推進している一方で、「林業」の施策の中に C02 削減についての視点がない。本施策は産業に関する施策であり、その中で、今、日本全体で、製造業、水産業、サービス業等と比較して、林業が最も伸びている。市にこれだけ豊富な林業資源があるなら、保全という視点だけではなく、産業と結び付けていってほしい。そのことがカーボンニュートラルにもつながると思う。
委員	カーボンニュートラルに関連して、カラマツ材を使った住宅、商店を作る時に何らかの優遇措置はあるのか。もしなければ検討してほしい。
事務局	ご質問からは少し外れるが、カーボンニュートラルに関連しては、ペレットストーブや太陽光発電について補助を行っている

	る。
委員	白田小学校は木材をふんだんに使っていてとても良かった。民間での活用についても促進し、産業として育ててもらいたい。今のままでは儲からずに業として成り立たない。
委員	食べていけなければ産業にはならない。
委員	ちなみにバイオマス発電を行っていた会社が倒産したというニュースを聞いた。折角良いことをしていても儲からなければやっていけない。
委員	カラマツは佐久地域では非常に有望で、特徴的な資源である一方、あまり市民にそのことが知られていないので、行政の役割として、カラマツのことを市民に浸透させることはできると思う。
事務局	先ほど質問のあった民有林と市有林の割合について、民有林が全体の5割弱となっており、残りが国有林や財産区、市等の公有林となっている。
事務局	「水産業」(29 ページ) について説明
部会長	水産業について、ご質問等あるか。
委員	佐久鯉よりも信州サーモンの方が売れている。佐久鯉をこれだけアピールしていても浸透していないという現実がある。
委員	私たち自身が鯉を食べなくなってきた。若い人は佐久鯉を知らない。よく知っているのは佐久の鯉太郎を知っている世代だけ。
委員	余談だが、気仙沼はフカヒレが有名だが、気仙沼で食べたい料理のアンケートを取ったら16位中の15位だったという。いかに行政や商工会議所が売り出そうとしているものが一般の消費者から相手にされていないか、思っていることとやっている

	<p>ことと結果がずれているということがデータとして分かる、データマーケティングの好例として挙げられている。佐久市でもそのような分析を行い、魅力的な品物を売り出していないと、若者が魅力を感じず離れていってしまうようなこともあるのではないかと考える。</p>
委員	<p>佐久鯉を推進している方には申し訳ないが、鯉を食べる機会は年越しくらい。佐久市に来てわざわざ鯉を食べたいという人はいない。行政として、消費者が求めるものを推進する必要があると思う。行政の立場として佐久鯉を大事にする必要があるのは分かるが、どこかで一度リセットしてもらいたい。</p>
委員	<p>佐久鯉を買って料理するとなると、鯉こくやうま煮などになってしまうが、それらを作れるような人は少ない。スーパーでぱっと買ってこることができるようになればいいと思う。</p> <p>コロナが流行する前に、熟成鯉というものを売り出していた。熟成鯉は臭みもなく、刺身のように食べられておいしく、熟成鯉を使った中華料理やカルパッチョ等が出たていたが、コロナ禍の影響で普及が止まってしまっていて残念。私も鯉を1匹買って食べるのは年に1回で、食べる人数が揃わないと食べられないが、スーパーで、パックで熟成鯉が売れるとなればよいと思う。佐久鯉を推進することについて厳しい意見もあるが、そのような方向性も期待している。</p> <p>加えて、鮎についてもどんどん減ってきている。しかし、高校生や、業者が子どもを集めていたりするのは良いと思う。年配の方が年に1回鮎を食べたいと思って買いに行っても、売り切れていたりして供給が足りなかったりもするが、鮎を煮ることができる人がいなければ今後は消滅していってしまう。私は、市の伝統食として、細々でも良いので続いていてもらいたい。</p>
委員	<p>佐久鯉を伝統食として続けていくことは重要であると思う。実際に熟成鯉がおいしいことも知っているが、一方でリピーターがいないという事実もある。「騙されたと思って」、と毎回勧められるのがつらいという声もある。これを強力に推すことについては疑問がある。鮎については、神楽坂の店では3匹1,500円で売られていた。また、ツルヤでも予約で入口まで長蛇の列</p>

	<p>ができていた。鯉よりは鮎の方が食いつきは良いのではないかということもある。そこに信州サーモンも含めて、水産業をフラットに見た時に、鯉に傾きすぎないようにする必要があると考える。</p>
委員	<p>鯉を食べられる店が少なく、あっても予約が必要であるという問題もある。</p>
事務局	<p>「商業・サービス業」(30 ページ) について説明</p>
部会長	<p>商業・サービス業について、ご質問等あるか。</p>
委員	<p>「空き店舗対策事業補助金」の内容について教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>空き店舗の改修、賃借料に対して補助を行っている。</p>
委員	<p>空いている店舗を、元の持ち主ではなく、新たに事業を行いたい人が借りて事業を行うときの補助ということで良いか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員	<p>承知した。事業をやめてしまった人に対して補助をするのでは意味がない。</p>
委員	<p>定住人口を増やしていくために、大型のショッピングセンターばかりでなく、魅力・活気のある地域のお店があると良いと思う。私は野沢地区に住んでいるが、野沢の空き店舗対策や商店街の活性化を本当にしようとするなら、アーケードの撤去について行政と協力しながら行う必要があると思う。</p>
委員	<p>商業・サービス業は目の前に来た人がターゲットであり、外貨を稼ぐということは、沢山外部から来ていただいて、各サービス業の努力によってそこで売り上げを上げるということであることから、観光とサービスが連携したまちづくりを行う必要がある。</p>

	<p>まちづくりという点では、樋橋地区については、その整備の影響で佐久平地域の既存のお店がなくなっている。既存のお店が生き残るためには、商店街でなくても、エリアごとに歩いて楽しめる生活街を作る必要があると思う。高齢化が進めば自家用車で移動できなくなるので、各エリアに身の丈に合った商業施設や集会所等を集めて、生活街を作る必要がある。</p> <p>高齢者が駅前に行ってもいいが、人が地区ごとに磁石のように集まって過ごしやすい環境を作る施策がこれからは必要になると思う。駅前には十分に発展したが、その分、他の地区は駅前に吸い取られている。そうではなく、自分たちのエリアの定住人口を増やせるようなまちにすることができれば持続可能になると思う。</p>
委員	<p>野沢、中込、岩村田とあるが、佐久市全体となれば臼田、浅科、望月も入る。</p>
委員	<p>望月には旅館をはじめとして面白いものが沢山あるし、浅科にもそのようなものがあると思う。</p>
委員	<p>例えば野沢を年寄りのまちにするということもあると思う。すべての地区に一律に人を集める必要はない。行政として、ここはおしゃれな地域、ここは年寄りの地域等、采配を振るってもらえるとよいと思う。</p>
事務局	<p>「観光」(31 ページ) について説明</p>
部会長	<p>観光について、ご質問等あるか。</p>
事務局	<p>本施策の「春日温泉活性化基本構想」について、別部会の委員から事前にご意見を頂いていたので紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画の策定に当たって、事前の調査・聞き取り等は関連事業者に限られていたのではないか。 ・地域住民（特に湯沢・新田・茂沢）が日頃何を感じ、何を考えているのか、その部分を置き去りにして「活性化」の旗を振っても、効果は短期的・限定的なものになってしまうと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久市や春日温泉の大きな魅力のひとつである「四季折々の自然」は、熟考された手厚い施業と多くの人手を費やして、適切な管理を継続することによって、はじめてその恩恵を我々に与えてくれるものではないか。 ・今までと同じ様に、施設に資金を投入し、イベントを開催して集客を募る…という外側からの手法ではなく、地元地域の内側から生まれ出るモノが必要ではないかと感じている。
委員	<p>今回のアンケートの対象は市民となっているが、観光については市民の満足度は関係ないのでは。むしろ外からの視点が重要だと思う。</p>
事務局	<p>本アンケートは市民向けだが、アプリ等から外部の意見の収集は行っている。</p>
委員	<p>景観形成の施策とも絡む所だが、佐久市の観光スポットはどうしても物足りない。スポットが点在してしまっているから1か所だけだと見どころがない。集めることができればより人が来ると思う。意識的にそういったスポットを作る必要がある。</p>
委員	<p>「春日温泉活性化基本構想」とはどのようなものか具体的に教えてもらいたい</p>
事務局	<p>「春日温泉活性化基本構想」とは、市は春日温泉という温泉地に、「もちづき荘」や「ゆざわ荘」といった温泉施設を持っているが、市の温泉施設だけではなく、春日温泉地域全体として、今後どのように地域を活性化させられるかを検討した構想である。</p>
委員	<p>具体的な投資の検討までは入っていないか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員	<p>このようなことはやっていくべきである。温泉地には人が来る。歓楽街がないと人は来ない。佐久地区はそういった面白い</p>

	<p>場所に乏しい。</p>
委員	<p>五稜郭については記載がないが、何か検討されていないのか。あまり活用はしないということか。</p>
事務局	<p>そのようなわけではない。御城印を配置する等の取組を行っている。</p>
委員	<p>小学校の解体後についてはまだ先のことか。</p>
事務局	<p>小学校が廃校となって、今は石垣の調査等を行っている。また、であいの館の隣に新たな施設を作るという計画もある。</p>
委員	<p>まず、野沢地区に観光駐車場が整備されたことで助かっている。整備に感謝する。また、旧大沢小学校についても来客が非常に増えており、取組に感謝する。</p> <p>佐久市の観光はインパクトが足りないということについて、佐久市観光協会という組織は、市内の各地区から出てきていることから、平等に各地区の宣伝を行っていたが、結果として宣伝が薄まっている。そのような意味で、観光協会というやり方が良いのか疑問に思う所がある。</p> <p>「株式会社佐久市」という観点から見ると、観光戦略が弱いと感じる中で、観光課と戦略組織のようなものが必要ではないかと話している。数値目標で、佐久市の観光でどれくらいの効果を挙げていくかということをも明確に定める必要があるのではないか。</p> <p>もう1つ、もし佐久市で何かを目玉とするとすれば、それはバルーンだと思う。バルーンフェスティバルの来場者は35万人、今年は前夜祭にも多くの人に来てくれていた。バルーンには大きな経済効果があると改めて感じた。その中で、常時バルーンのフリーフライトが行えるようになると良いと思う。「バルーンにいつでも乗れるまち」という位置付けができれば、また経済効果も大きいと思う。</p>
事務局	<p>観光PRについては、平成30年から、臼田、浅科、望月、浅間、野沢と順番に重点地区を決めて観光PRを平等に行ってきた</p>

	<p>た経過がある。これは令和5年度で一旦一区切りと聞いており、今後については第2次観光ビジョンに基づき、今後はビジョンに基づいて今までとは違うPRの方法を検討している。</p>
委員	<p>観光課だけではなく、市を挙げて取り組んでもらいたい。</p>
委員	<p>各地域の良い所を戦略的にアピールすることが今後求められていくと考える。</p>
委員	<p>今あるものだけで観光客を呼び込むということは難しい。観光地はセットになることで人を呼び込める。例えば貞祥寺は素晴らしい場所だが、そこにあるのはあくまで貞祥寺だけ。観光地を集積することについて、投資や箱物の建設を含めて市に検討してもらいたい。</p>
委員	<p>FDA（フジドリームエアラインズ）が、松本空港からの富士山遊覧フライトツアーなど、スポットで遊覧飛行を行っている。例えばバルーンの上を遊覧飛行するなど、そういったものを誘致するのも話題性として面白いのではないか。また、千曲川の河川敷などで、バルーンを通年で飛ばすことができるとよい。</p>
委員	<p>佐久市には観光すれば楽しい所があるが、マイカーがなければ動けないという問題がある。ぜひ交通についても考えてもらいたい。外から来てもマイカーがなければ動けないとなれば、お客さんも来なくなってしまうのではないか。</p>
委員	<p>市内周遊観光モデルコースを構築したとあるが、これは実践に入っているのか。</p>
事務局	<p>バルーンフェスティバルの際にオープントップバスの運行を行っている。また、小諸市等と協力して観光周遊コースについても検討を進めている。</p>
委員	<p>軽井沢のホテルが佐久のツアーを行っている。</p>
委員	<p>アンブレラスカイは野沢商店街の事業であるが、コロナが落</p>

	<p>ち着いてきて山門市に観光バスが来るようになった。話を聞くと、五稜郭に行かれる方も望月に行かれる方もいる。行先が広域に渡っているが、それらを有機的に結びつけることができるとよい。</p> <p>バルーンに話を移すと、バルーンを飛ばそうとしても実際には難しい、パイロットがいない等の話がある一方で、最近では花火大会の席の高級化が話題になっている。広い目で見れば、100万円を払ってでもバルーンに乗りたいという人もいると思う。それだけの金額であれば、パイロットをやりたいという人も必ず集まると思う。我々も考え方を考えていかなければならない。</p> <p>ここでこれまで出たような意見について、どこでどう決定してスタートするのか、ということがないことが問題である。観光協会がやるのか、青年会議所か、商工会議所か、観光課か、決定機関がない。そのような企画を行政がやっても大抵うまくいかないため、DMO を作れというわけではないが、各団体の意見を吸い上げてスピード感のある決定をすることができる組織の必要性を感じる。</p> <p>もう1つ、経済効果という所に触れられていないことも問題である。成功・不成功の基準が人数だけで、その結果どこにどうお金が流れるか、等の経済効果を検証する組織が必要であると考える。</p> <p>これだけ人口が減ってきている中で、賢い自治体はどれだけ観光で外貨を稼げるかにシフトしている。佐久市はせっかく観光資源はあるのに中途半端になっており、外の自治体からは「もったいない」と思われている。軽井沢に多くの観光客が来ている中で、佐久市まで来てもらえていないのはチャンスロスとなっている。市の観光ビジョンに示された内容を達成するための具体例まで入り込んで検討を進めてもらいたい。そのことが観光、商業、サービス業、働き方を含めた地域経済の循環に繋がっていくと考える。</p>
委員	<p>今の話は観光に限らず全てに繋がっていくと考える。他の地域ではDMOのような組織を設立しているのか。</p>
委員	

委員	DMOとは、観光地域づくり法人のこと。DMOには観光協会も商工会議所も観光課も全てが入る。法人化すると国土交通省から補助が出て、地域の計画について支援を受けられる。成功している団体は大成功しているが、一方で、補助金ありきでDMOを設立した、継続性のないところは失敗している。きちんと民間で組織を作って、誰が何をするかを計画的に進める必要がある。
事務局	「工業」(32ページ)について説明
部会長	工業について、ご質問等あるか。
委員	市民アンケートの分析の中の、「佐久市の強み」とは具体的にどのようなものとするか。
事務局	例えば、首都圏からの交通の便の良さは強みの1つとしてあると考える。
委員	人手不足が叫ばれる中で、外から大きな会社を呼んで発展するというモデルは既に崩れている。企業誘致については新しいやり方を考えていく必要性が大きいと考える。既存の地域の産業の雇用を促進し、建物を建て替えてさらに継続していくようなところもあるので、工業団地を作るにしても、既存の産業をさらに強く成長させるための工場用地の確保が今後必要と考える。
委員	このことは商業・サービス業でも同じである。外部から連れてくるのではなく、SOIC(佐久産業支援センター)を活用することや、地元の人材育成に力を入れることにより、既存の工業、商業を持続させる方向にシフトしてもらいたい。
委員	外から来る企業には補助金を出しているが、既存の企業に対しては手当が薄いのではないかと。 人手が不足しているという中で、技術専門校のようなものを充実させて、地元で学び、就職できるような形を作れるとよい。高校統合後の野沢南高校の跡地がそのようなものに活用される

委員	<p>と良いと考えている。</p> <p>もし専門校を作るなら、中途半端なものにはせず、多少お金はかかっても、民間の最先端の機材等を導入してもらいたい。</p>
委員	<p>親からすると、地元で技術を身に付けられる学校があれば助かるし、企業としても人材を確保できる。こういったことは全て市でやるのではなくて、専門の人材に任せられると良い。</p>
事務局	<p>「就労・雇用」(33 ページ) について説明</p>
部会長	<p>就労・雇用について、ご質問等あるか。</p>
委員	<p>これまでの議論の内容の全てを含むが、生活しやすい環境のまちづくりが非常に大事だと考えている。</p> <p>以前に松本の人と話した時、佐久のことはぴんころ地蔵とバルーンのことしか知らないと言われた。松本空港はこれ以上拡張できないので、空港を佐久につくたらどうか、などと言われたが、今はヨーロッパの企業では、CO2 排出への配慮から飛行機よりも電車を使うことを奨励している。雇用や企業のことを考えると、アクセスを良くするということが重要だと考えるので、地下鉄等があると良いのではないか。都会の人は車を持たないので、交通のアクセスが良くないと働きにくい。そのようなことを含めて、全体が調和したまちづくりを改めて整理して考えてもらいたい。また、現在の総合計画は令和8年度までが計画期間だが、この審議会が出た意見等については、計画の改訂を待たずに随時政策に反映させてもらいたい。</p>
部会長	<p>ここまでに出示された意見についてまとめると、特にコロナ後の世界においては「住みよいまち」を求める方向に価値観がシフトしてきているので、この審議会が出た意見等を反映し、改善すべきところは改善して施策を進めてもらいたい。</p>

(2) その他

・特になし

3 閉会